

## 52. 佐賀県竹崎火山－噴火口と火山弾－

- 地域** 佐賀県藤津郡太良町大浦竹崎
- 交通** 国鉄長崎本線 肥前大浦駅下車（徒歩約40分）  
（祐徳バス 竹崎行が大浦駅前からあり道越で下車）
- 地形図** 諫早（1／50,000）

多良岳の東側で海岸線が有明海に突出している所があり、その先端に竹崎島がある。

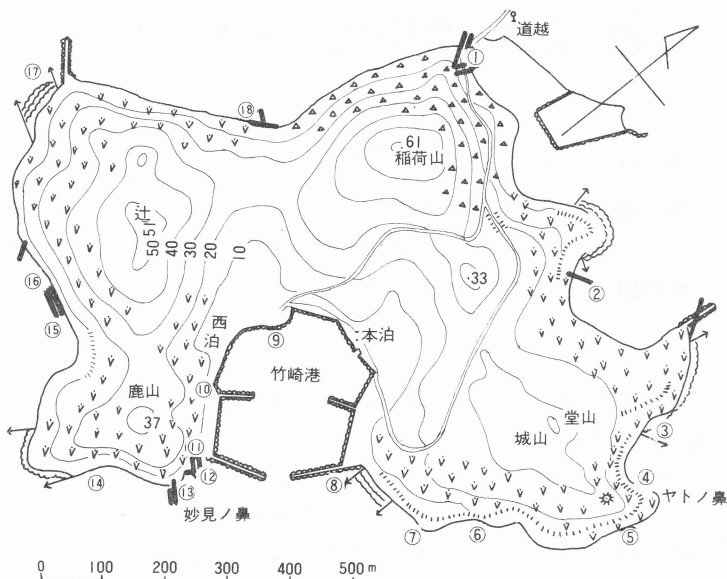
“たけざきや ひゅたん島 まわれば1里

2度もまわれば 2里ござる……………”

とこの地の民謡にうたわれているように周囲約 4.5km、面積約 0.5 km<sup>2</sup>のU字型の平らな島であり、2時間足らずで海岸ぞいに1周できる。島とはいっても現在は埋めたててつくられた道路で、陸続きになっている。竹崎火山は洪積世の、火山弾や岩脈を伴う噴火口をもつ火山であると松本征夫によって昭和39年に発表された。

この竹崎火山の初期には火山弾、火山れき、火山灰の噴出活動と溶岩を流出させる活動とを交互に数回繰返して、竹崎互層をつくった。その後、この竹崎互層をおおう20m以上の厚さにおよぶ玄武岩溶岩を流出して、溶岩台地や岩脈をつくった。

竹崎互層の薄い溶岩流と集塊岩との関係がよく露出しているところは②、⑧、⑬の干潟の部分である。集塊岩の中の火山弾を見るのに適した露頭は⑬～②、⑥～⑧の海岸や干潟がよい。火山弾を採集できるのは上記の外には、稲荷山の上の畑の周辺がある。ここのは風化が弱いので標本には都合がよい。これらの溶岩流、集塊岩、火山れきは同質の玄武岩である。火山弾の大きさは長径が2cmから120cmで、竹崎港付近の⑥－⑦、⑨、⑬では70cm以上の大きいもの



竹崎火山ルートマップ

が多い。形はぼうすい形のものや桃の核状のものがよく見られる。西九州で火山弾を伴う玄武岩の活動が見られるのは、五島列島をのぞくと非常に少ない。

堂山、城山、辻、鹿山の台地をつくっている厚い溶岩流は②～⑦と⑪～⑮でよく観察することができる。この溶岩はかんらん石玄武岩で、顕微鏡で観察すると填間組織で、輝石、かんらん石、斜長石の斑点がある。かんらん石はイディングス石に変化しているものや周縁部がイディングス石になっているものがほとんどである。斜長石は細長い短冊状で、アルバイト双晶を示すものが比較的多い。また、大きい斑晶の斜長石の中には、波動消光をなすものや、蜂巢状構造をしているものがある。不透明鉱物としては磁鉄鉱が非常に多く、中には鋭菱面体をなすチタン鉄鉱と思われるものもかなり入っ

ている。

竹崎火山は大小さまざまな岩脈が図に示すような方向に伸びている。これらの岩脈の方向を伸長させるとおおよそ竹崎港を中心に、放射状に走っている。岩脈の大きいものは①と⑫で見られ、幅は①で最大2 m以上、⑫で1.7 mある。地面からの高さは高い所で3 mを越えている。ちょうど、びょうぶを立てたようにしている。小さい岩脈は幅0.3 m～0.5 m、高さ1 m以下である。この小さい岩脈は②、⑬、⑮、⑱等で観察できる。これらの岩脈は竹崎互層を貫いていて、岩質は溶岩流とほぼ同質のものである。組織は填間組織ないしは間粒組織をなす。斑晶も厚い溶岩流と同じであるが②と③の間の岩脈の中には金雲母が含まれている。

これらの岩脈の外側には急冷周縁相があり、急激に周縁部が冷却したことを物語っている。このような岩脈が海岸に非常に多く見られるために岩脈の追跡や研究には都合がよい。

以上のように、多良山系にはめずらしい新しい玄武岩の溶岩、岩脈、集塊岩、火山弾、それに小型の噴火口がこの狭い竹崎に集中している。竹崎火山とはこのような特徴をもったひとつの火山である。

(橋口文雄)